



京都大 iPS細胞研究所  
上廣倫理研究部門研究員

澤井 努さん(31)

万能細胞として再生医療への貢献が  
大きな期待を集める iPS細胞（人工

多能性幹細胞）。受精卵を壊して作る  
ES細胞（胚性幹細胞）と異なり、体  
の細胞から作ることができるため、倫  
理的問題はないとされてきた。が、生  
命倫理学者として近著「ヒト iPS細  
胞研究と倫理」（京都大学学術出版

会）で、その見方を正し、倫理的課題  
と規制の必要性を詳細に論じた。

「ES細胞研究と iPS細胞研究は  
相互補完的に進められている。iPS  
細胞研究はES細胞研究の成果の上に  
成り立っており、倫理的課題は一貫し

ています」

ヒト iPS細胞をヒトの個体にまで  
成長させる技術が理論的に可能である  
点も指摘。「ヒト iPS細胞もヒト胚  
と同様に道徳的価値を持つ『人の生命  
の萌芽』とみなすのが妥当。規制の緩

いヒト iPS細胞と、規制の厳しいヒ  
ト胚を一律に規制する必要がある」

科学の進展に倫理的判断が追いつか  
ない現状を懸念する。「一般市民を含  
めた開かれた議論が必要。そのための  
情報発信を続けたい」（池田洋一郎）